

公 開
資 料 2

第 3 2 3 回 幹 事 会
諸 報 告 事 項

令和 4 年 3 月 2 4 日

日 本 学 術 会 議

Ⅱ 諸 報 告 事 項

ページ

第 1	前回幹事会以降の経過報告	
1	会長談話	2
2	会長等出席行事	2
3	委員の辞任	3
第 2	各部・各委員会等報告	
1	部会の開催とその議題	3
2	幹事会附置委員会の開催とその議題	4
3	機能別委員会の開催とその議題	4
4	分野別委員会の開催とその議題	5
5	課題別委員会の開催とその議題	1 6
6	若手アカデミーの開催とその議題	1 6
7	連絡会議の開催とその議題	1 6
8	サイエンスカフェの開催	1 7
9	記録	1 7
1 0	総合科学技術・イノベーション会議報告	1 7
1 1	慶弔	1 7
1 2	意思の表出（英訳版）に係る報告	1 8
1 3	インパクト・レポート	1 8

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長談話

日本学術会議会長談話
「ロシアによるウクライナへの侵攻について」

このたびのロシアによるウクライナへの侵攻は、世界の平和と安全を脅かし、国際秩序の根幹を揺るがす行為であり、到底、受け入れられるものではありません。このような事態が、人びとの安寧と、世界と日本における学術の発展及び学術の国際的な連携に及ぼす影響を深く憂慮し、対話と交渉による平和的解決を強く望みます。

令和4年2月28日
日本学術会議会長 梶田 隆章

2 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
2月24日(木)	記者会見 (オンライン)	梶田 会長 菱田 副会長 高村 副会長 小林 幹事
3月7日(月)	Future Earth Governing Council (オンライン)	高村 副会長
3月11日(金)	日本私立大学連盟との意見交換会	梶田 会長 菱田 副会長
3月13日(日)	学術フォーラム「カーボンニュートラル実現に向けた学術の挑戦 システムの転換を目指して」 (オンライン)	梶田 会長 高村 副会長
3月15日(火)～ 3月16日(水)	第21回アジア学術会議 (オンライン)	梶田 会長 高村 副会長
3月16日(水)	松野内閣官房長官との面会	梶田 会長
3月22日(火)	第68回 (令和3年度) 大河内記念賞贈賞式	梶田 会長
3月23日(水)	連続公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」第3回「Disability Inclusive Academia: 障害のある人々の視点は科学をどう変えるか」 (オンライン)	望月 副会長

注) 部会、委員会等を除く。

3 委員の辞任

なし

第2. 各部・各委員会等報告

1 部会の開催とその議題

- (1) **第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会**（第15回）（3月22日）
 - ① 分科会の活動について
 - ② ご講演と質疑
「COVID-19 感染状況の現状と今後の対策についてー内閣官房 AI シミュレーションプロジェクトの結果からー」
中川晋一先生（日本学術会議連携会員、大規模感染症予防・制圧体制検討分科会委員、一般社団法人情報通信医学研究所代表理事・所長）
「新型コロナウイルス変異株によるパンデミック」
坂口剛正先生（広島大学大学院医系科学研究科ウイルス学教授）
「新型コロナウイルスに対するワクチン開発」
野阪哲哉先生（三重大学大学院医学系研究科感染症制御医学・分子遺伝学分野教授）
 - ③ その他

- (2) **第一部拡大役員会**（第6回）（3月23日）
 - ① 2022年度の予算について
 - ② 総会における第一部報告及び総会時第一部会の議題について
 - ③ その他

- (3) **第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会**（第5回）（3月23日）
 - ① 意思の表出と今後の課題について
 - ② その他

- (4) **第二部着床前診断、特に PGT-M に関する検討分科会**（第1回）（3月23日）
 - ① 役員を選出
 - ② 特任連携会員の推薦について
 - ③ 今後の活動について
 - ④ その他

- (5) **第二部役員会**（第20回）（3月24日）
 - ① 来年度の第二部予算執行方針について
 - ② 令和3年度予算執行状況について
 - ③ 査読候補者リストについて
 - ④ 現在提出されている意思の表出の申出書について
 - ⑤ その他

(6) 第三部拡大役員会 (第17回)、理学・工学系学協会連絡協議会 (第13回)
(3月24日)

【第13回理学・工学系学協会連絡協議会】

- ① 開催の挨拶：第三部部長 吉村忍
- ② 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」の進捗状況について
副会長 菱田公一
- ③ 「日本学術会議と国内の学協会連合等との連携に関する調査報告書」について
第三部副部長 米田雅子
- ④ カーボンニュートラル (ネットゼロ) に関する連絡会議について
第三部部長 吉村忍
- ⑤ 持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022 (IYBSSD2022) 連絡会議について
物理学委員会委員長 野尻美保子
- ⑥ 意見交換
日本学術会議と学協会の連携について、その他、自由に意見交換

【第三部拡大役員会委員のみ】

- ① 第三部夏季部会について
- ② 令和4年度第三部予算執行方針について
- ③ その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 広報委員会「学術の動向」編集分科会 (第6回) (3月4日)

- ① 「学術の動向」の編集について
- ② その他

(2) 財務委員会 (第2回) (3月4日)

- ① 令和4年度審議等予算の配分について
- ② その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学者委員会 男女共同参画分科会 (第9回) (2月24日) ※メール審議

- ① 意思の表出の申出書について

(2) 科学者委員会 男女共同参画分科会 (第10回) (3月9日) ※メール審議

- ① 意思の表出の申出書について

(3) 科学者委員会 学術研究振興分科会 (第3回) (3月9日)

- ① 「未来の学術振興構想 (仮称)」のとりまとめ方針について
- ② その他

(4) 国際委員会 国際対応戦略立案分科会 (第4回) (3月9日)

- ① 第3回国際対応戦略立案分科会議事要旨について
- ② 加入学術団体の活動状況について
- ③ その他

(5) 科学者委員会 (第14回) (3月16日) ※メール審議

- ① 日本学術会議中部地区会議学術講演会『環境教育・環境研究を通じた地域貢献』の開催について
- ② 協力学術研究団体の指定について
(審議対象団体) 芸術学研究会、日本口腔ケア学会、日本ヘルスコミュニケーション学会、日本医療保育学会、日本マイコプラズマ学会

(6) 科学者委員会 学協会連携分科会 (第6回) (3月16日)

- ① 調査結果の概要報告
- ② 事例紹介
第一部 社会学系コンソーシアムの取組み
社会学系コンソーシアム理事長 関礼子連携会員
第二部 一般社団法人日本看護系学会協議会の取組み
一般社団法人日本看護系学会協議会前会長 小松浩子会員
第三部 公益社団法人日本地球惑星科学連合の取組み
公益社団法人日本地球惑星科学連合会長 田近英一会員
- ③ 意見交換

(7) 科学者委員会 研究評価分科会 (第3回) (3月22日)

- ① 公表した提言の活用について
- ② 今後の活動方針について
- ③ その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 心理学・教育学委員会 乳幼児発達・保育分科会 (第2回) (2月28日)

- ① 今後の活動計画について
- ② その他

(2) 心理学・教育学委員会 法と心理学分科会 (第5回) (3月2日)

- ① 話題提供及び質疑
(i) 話題提供：笠井修委員「アメリカにおける法と心理学—契約法学への応用」
(ii) 話題提供：仲真紀子委員「供述弱者からの聴取—司法面接の経緯と動向—」
- ② 報告：行場次朗委員「公認心理師養成大学教員連絡協議会における公認心理師試験の見直し状況の報告」
- ③ その他

(3) 法学委員会 生殖補助医療と法分科会 (第4回) (3月3日)

- ① 委員の追加 (窪田充見連携会員)
- ② 渡邊泰彦教授 (京都産業大学) による報告
- ③ 建石真公子委員による報告
- ④ 議論
- ⑤ その他

(4) 史学委員会 歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会 (第4回) (3月4日)

- ① 2022年6月25日史料保存利用問題シンポジウムについて
- ② 日本学術会議資料の保存・管理と公開に関して
- ③ 被災史料の救済・保存をめぐって
- ④ COVID-19 パンデミックをめぐるアーカイブズの構築のために
説明者：飯島渉氏 (青山学院大学教授、日本学術会議連携会員)
- ⑤ その他

(5) 言語・文学委員会 科学と日本語分科会 (第3回) (3月8日)

- ① 日本の言語の多様性に関する検討
「日本語のできない帰国子女」
報告者：定延利之委員 (京都大学大学院文学研究科・連携会員)
- ② 第25期の今後の活動計画について
- ③ その他

(6) 心理学・教育学委員会 高大接続を考える分科会 (第4回) (3月12日)

- ① 本分科会の来年度の進め方について
- ② その他

(7) 史学委員会 博物館・美術館等の組織運営に関する分科会 (第6回) (3月14日)

- ① 報告「博物館法の一部を改正する法律案について」
(参考人：文化庁企画調整課 課長補佐 稲畑航平氏)
- ② 上記報告を踏まえた今後の博物館制度のあり方に係る本分科会の意思表示に関して
- ③ その他

(8) 経済学委員会 持続的発展のための制度設計分科会 (第7回) (3月14日)

- ① 報告「制度設計のための医療・介護に係る大規模行政管理情報の利活用について」
(野口晴子)
- ② 今後の審議方針について

(9) 政治学委員会 国際政治分科会 (第3回) (3月15日)

- ① パンデミックと社会に関する連絡会議について
- ② カーボンニュートラルに関する連絡会議について
- ③ 2月6日開催の学術フォーラムの成果について

- ④ 来年度に向けた分科会の活動について
- ⑤ その他

(10) 心理学・教育学委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・社会学委員会・史学委員会・地域研究委員会・情報学委員会合同 デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会 (第5回) (3月15日)

- ① 人文学におけるデジタルの応用に関する教育の動向
 - ・ 下田正弘委員
 - ・ 矢野桂司委員
 - ・ 大向一輝氏 (東京大学大学院人文社会系研究科准教授、説明者)
 - ・ 赤間 亮氏 (立命館大学文学部教授、参考人)
- ② 第25期の活動計画
- ③ その他

(11) 社会学委員会 社会福祉学分科会 (第6回) (3月16日)

- ① 提言 (見解) の骨子について
- ② 今後の予定

(12) 史学委員会 (第5回) (3月17日)

- ① 2022年度史学委員会主催シンポジウムについて
- ② 意見表出の手続き及び査読の手続きについて
- ③ その他

(13) 経営学委員会 経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会 (第4回) (3月19日)

- ① 報告 (案) のその後の経緯
- ② 学術フォーラム等の企画
- ③ その他

(14) 史学委員会 中高大歴史教育に関する分科会 (第5回) (3月20日)

- ① 中学校の歴史教育から考える
(参考人: 安池美希子 (京都府長岡京市立第四中学校))
- ② その他

(15) 言語・文学委員会 古典文化と言語分科会 (第4回) (3月20日)

- ① 倉員正江委員「大学入学共通テストにおける国語の出題について」
- ② その他

(16) 法学委員会 セーフティネットと法分科会 (第5回) (3月22日)

- ① 廣瀬真理子「社会的セーフティネットーEUの動きを参考にしながら」
- ② 岩永理恵「コロナ禍と生活保護の実態と課題」

(17) **哲学委員会** (第7回) (3月23日)

- ① 第一部会・拡大役員会の審議報告(委員長より)
- ② 2021年度活動の振り返り
- ③ 2022年度活動の展望
- ④ 日本学術会議の今後のあり方に関する意見交換
- ⑤ その他

(18) **地域研究委員会** (第3回) (3月24日)

- ① 今年度の活動状況
- ② 来年度の活動計画
- ③ 学術会議全体方針の確認
 - i 意見の発出方法の変更について
 - ii 委員推薦方法の変更について

第二部担当

(1) **食料科学委員会 獣医学分科会 (第4回)、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会 (第5回) 合同会議** (2月26日)

- ① シンポジウムに関する検討
 - ・シンポジウム「生活に身近な One Health：食品から検出される薬剤耐性菌の現状」の開催前の打ち合わせ
 - ・25期のシンポジウム：今後の計画とその内容について
- ② リスクに係る提言WGの進捗について
- ③ その他

(2) **統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同 ワイルドライフサイエンス分科会 (第4回)** (2月26日)

- ① 海洋ウイルスの多様性と生態、およびウイルスの一般的特性と人間社会とのつながり(京都大学化学研究所 緒方博之教授)
- ② シンポジウムについて
- ③ その他

(3) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUBS 分科会 (第4回)** (2月28日)

- ① IUBS 総会準備について
- ② IYBSSD2022 との協働について
- ③ その他

(4) **健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会 (第7回)** (2月28日)

- ① 高齢者の健康分科会公開シンポジウム案
- ② 次年度の高齢者の健康分科会の活動について
- ③ その他

(5) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生態科学分科会 (第3回) (3月2日)

○審議

- ① 分科会ワーキンググループの今後の活用の仕方について
- ② 他の分科会との連携について
- ③ 生態学会などの学協会との連携について
- ④ その他

○報告

- ① 若手アカデミーの公開シンポジウム (3/1) について (石川委員)
- ② カーボンニュートラル連絡会議の3/13の学術フォーラムについて (北島委員長)
- ③ IPBESの活動について (橋本委員)
- ④ その他

(6) 農学委員会 育種学分科会 (第2回) (3月3日)

① 学術会議のご報告

- a. マスタープランについて
- b. 次期会員選出について

- ② カーボンニュートラル (ネットゼロ) に関する連絡会議への参加について
- ③ 育種学将来構想計画委員会
- ④ その他

(7) 薬学委員会 地域共生社会における薬剤師職能分科会 (第5回) (3月3日)

- ① 令和4年度の活動計画
- ② その他

(8) 歯学委員会 臨床系歯学分科会 (第2回) (3月7日)

【協議事項】

- ① 報告「新型コロナウイルス感染症とコロナ禍における口腔に関連した諸問題とその対応」について
- ② パンデミックと社会に関する連絡会議について
- ③ カーボンニュートラルに関する連絡会議について
- ④ 臨床系歯学分科会独自の活動について
- ⑤ 公開講演会／シンポジウムの開催について
- ⑥ その他

【報告事項】

- ① 日本学術会議の活動について
- ② 見解／報告「歯学／口腔科学分野の課題と展望」について
- ③ 日本学術会議歯学領域の活動について
- ④ その他

(9) 臨床医学委員会・心理学・教育学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・
土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会 (第8回) (3月7日)

- ① 提言案のたたき台について
- ② シンポジウムの開催日時、内容、演者の案の検討
- ③ その他

(10) 農学委員会 (第5回) (3月8日)

- ① 意思の表出に係る手続きについて (日本学術会議全体及び第二部の査読体制)
- ② その他

(11) 歯学委員会 (第4回) (3月8日)

【協議事項】

- ① 報告「新型コロナ感染症とコロナ禍における口腔に関連した諸問題とその対応」について
- ② 見解／報告「歯学／口腔科学分野の課題と展望」の作成について
- ③ パンデミックと社会に関する連絡会議について
- ④ カーボンニュートラルに関する連絡会議
- ⑤ 日本学術会議が提案する学術計画 (旧マスタープラン) について
- ⑥ 公開講演会／シンポジウムの開催について
- ⑦ その他

【報告事項】

- ① 日本学術会議の活動について
- ② 会員、連携会員の選考について
- ③ 日本学術会議歯学領域の活動について
- ④ その他

(12) 農学委員会 林学分科会 (第3回) (3月9日)

- ① 公開シンポジウム「気候変動時代における市町村による新たな森林管理とゾーニング」の開催方法について
- ② 第25期における意思の表出について
- ③ その他

(13) 統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同 ワイルドライフサイエンス分科会
(第5回) (3月11日)

- ① シンポジウムのまとめと次回の発信方法について
- ② その他

(14) 基礎生物学委員会 (第2回)、統合生物学委員会 (第2回) 合同会議
(3月11日)

- ① 自己紹介
- ② 両委員会でも共有すべき課題、問題点など

- ③ 今後の予定
- ④ その他

(15) **統合生物学委員会・基礎生物学委員会・地球惑星科学委員会合同 自然史・古生物学分科会** (第3回) (3月15日)

- ① 自然史財提案10年シンポジウム準備について
- ② IYBSSD2022との連携について
- ③ 国立沖縄自然史博物館設立運動の経過報告
- ④ その他

(16) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 遺伝学分科会** (第2回)
(3月15日)

- ① 生物学分野における研究成果の発表、評価、オープンアクセスジャーナル、日本からの情報発信
・鳥取大学乾燥地研究センター 辻本壽教授からご説明
- ② その他

(17) **食料科学委員会 水産学分科会** (第6回) (3月18日)

- ① 水産資源の中長期的利用について
- ② 意思の表出の手続きについて
- ③ その他

(18) **食料科学委員会 畜産学分科会** (第4回) (3月20日)

- ① 市民公開シンポジウム開催について
- ② 第25期の報告(科学的な事柄について、部、委員会又は分科会が行った審議の結果を発表するもの)について
- ③ その他

(19) **農学委員会 農業経済学分科会** (第3回) (3月21日)

- ① 意思の表出に係る手続きについて(日本学術会議全体及び第二部の査読体制)
- ② 公開シンポジウムについて
- ③ 第25期の活動について
- ④ その他

(20) **健康・生活科学委員会 家政学分科会** (第8回) (3月21日)

- ① 生活科学系コンソーシアムについて
- ② 意思の表出の作成手続について
- ③ 子育て支援に関する提言の検討(WG報告)
- ④ 家庭科における免許外教科担任等に関する提言の検討(WG報告)
- ⑤ その他

第三部担当

- (1) 化学委員会 材料化学分科会 (第4回) (3月2日)
- ① 博士人材育成、地方大学活性化についての進捗状況共有と意見交換
- (2) 土木工学・建築学委員会 都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会 (第8回)
(3月3日)
- ① デザインをめぐる意見交換
② 今後の予定について
- (3) 土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会 (第6回)、同分科会 IRDR 活動推進小委員会 (第3回) 合同会議 (3月3日)
- ① 日本学術会議関連
② 国際コンポーネント
ア. IRDR 関連
イ. GP2022 関連
ウ. ICoE
③ 国内コンポーネント
ア. J-HoP 関係
イ. 提言関係
④ その他
- (4) 機械工学委員会 生産科学分科会 (第5回) (3月4日)
- ① 意思の表出に向けた意見交換
② その他
- (5) 数理科学委員会 数理統計学分科会 (第2回) (3月7日)
- ① 統計エキスパート人材育成プロジェクトについて
② 数理統計学分科会からの意思の表出の可能性について
③ シンポジウム開催について
④ その他
- (6) 化学委員会 物理化学・生物物理化学分科会 (第4回) (3月8日)
- ① 3月8日午後のシンポジウム (ALFA 計画の現状と展望) について
② 第25期における分科会の今後の活動方針・計画について
③ その他
- (7) 物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会 (第2回) (3月8日)
- ① Master Plan の後継の相談
② IYBSSD 関連
③ 物理部会関連でのシンポジウム
④ カーボンニュートラルの報告

⑤ その他

(8) 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会 (第5回) (3月8日)

- ① 社会水文学小委員会の活動報告 (小森先生)
- ② 第3回目の地球・人間圏分科会主催のシンポジウム企画案について (植松先生)
- ③ 講演1: 松田裕之先生「ユネスコ「人間と生物圏」計画の可能性」
- ④ 講演2: 中田節也先生「ジオパークの活動について」
- ⑤ その他

(9) 土木工学・建築学委員会 インフラ高度化分科会 (第7回) (3月8日)

- ① 各WGからの報告
- ② 学術シンポジウムの開催について
- ③ 意見交換
- ④ 今後の展開

(10) 材料工学委員会 バイオマテリアル分科会 (第5回) (3月9日)

- ① 生体医工学分科会と共同での主催シンポジウム開催について
- ② マスタープランに代わる新たな取組について
- ③ 今後の作業について
- ④ その他

(11) 化学委員会 無機化学分科会 (第4回) (3月9日)

- ① 「株式会社トクヤマのカーボンニュートラルへの取り組みと材料開発」
株式会社トクヤマ研究開発部門徳山研究所所長 縄田輝彦様
- ② 「無機ナノ触媒を用いたカーボンニュートラル反応システムの開拓」
九州大学先端物質化学研究所教授 山内美穂先生
- ③ 「バイオマス由来化学品合成のための水素脱酸素用固体触媒の開発」
東北大学大学院工学研究科教授 富重圭一先生

(12) 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 (第6回) (3月10日)

- ① 最近の IUGS の動向
- ② チバニアンシンポジウムの開催について
- ③ IGC の巡検に関して
- ④ その他

(13) 機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 理論応用力学
分科会 (第4回)、同分科会 理論応用力学企画小委員会 (第2回) 合同会議
(3月11日)

- ① カーボンニュートラル連絡会議への対応について
- ② 企画小委員会報告
- ③ 学協会連携小委員会報告

- ④ IUTAM・国際連携小委員会報告
- ⑤ 第66回理論応用力学講演会の準備状況について
- ⑥ 第8回理論応用力学シンポジウムについて
- ⑦ IUTAM General Assembly 選出方法について
- ⑧ その他・議事要旨の委員長一任について

(14) 情報学委員会・心理学・教育学委員会合同 教育データ利活用分科会 (第5回)
(3月11日)

- ① 提言の内容について
- ② 今後の予定について
- ③ その他

(15) 情報学委員会 デジタル社会を支える安全安心技術分科会 (第6回)
(3月14日)

- ① シンポジウムについて
 - ア. 講演者、パネリストの紹介
 - イ. 事前アンケート結果
 - ウ. 事後アンケート
- ② 今後の活動
見解について
- ③ 今後の予定

(16) 総合工学委員会・臨床医学委員会合同 放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会 (第2回) (3月14日)

- ① 学術会議の意思の表出などに関する手続きの改正について
- ② 放医研のサイクロトロン事故概要
- ③ 小委員会の活動報告
- ④ 核医学分野の拠点の整備に関する今後の活動について
- ⑤ その他

(17) 機械工学委員会 機械工学企画分科会 (第2回) (3月15日)

- ① 各分科会の報告
- ② 意思の発出について
- ③ 今後の予定

(18) 土木工学・建築学委員会 感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方分科会
(第6回) (3月15日)

- ① 各SWGの活動報告 (各SWG幹事)
- ② 話題提供：定行まり子先生
感染症下での学生の生活、保育園の状況等に関する調査結果の紹介
- ③ 話題提供：大岡龍三先生

環境分野より脱炭素に対する感染症の影響、各種の環境シミュレーション手法等の紹介

④ 令和4年度に向けた活動方針についての意見交換

(19) 数理学委員会 (第3回) (3月15日)

- ① 分科会の活動報告
- ② 分科会の意思の表出について
- ③ その他

(20) 数理学委員会 数学分科会 (第4回) (3月15日)

- ① マスタープラン2020を巡る継続審議
- ② その他

(21) 数理学委員会 IMU分科会 (第4回) (3月15日)

- ① IMU GAの準備状況について
- ② ICM2022の準備状況について
- ③ その他

(22) 土木工学・建築学委員会 (第8回) (3月17日)

- ① 関連する講演会、シンポジウムについて
- ② 委員会・分科会の活動状況について
- ③ 2022年度の土木工学建築学委員会全体会について
- ④ 今後の予定について

(23) 地球惑星科学委員会 IGU分科会 (第4回) (3月22日)

- ① IGCの活動報告
- ② テーマセッションの準備状況等
- ③ 小委員会からの報告
- ④ その他

(24) 電気電子工学委員会 通信・電子システム分科会 (第2回)、同分科会 ICT分野の魅力・興味基軸の分析と創造小委員会 (第2回) 合同会議 (3月22日)

- ① 小委員会での検討状況の報告
- ② 提言、報告に向けての審議
- ③ 電気電子工学委員会報告
- ④ その他

(25) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 (第6回) (3月22日)

- ① 安全工学シンポジウム2022について
- ② 各小委員会報告

③ その他

(26) 化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 触媒化学・化学工学分科会
(第5回) (3月22日)

- ① 公開シンポジウム案について
- ② 意思の表出案について
- ③ その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会 自動運転
企画分科会 (第5回) (3月2日)

- ① 第25期の意思の表出について
- ② 学術の動向の特集号 (ELSI 関係) について
- ③ 安全工学シンポジウムのOS/PD の案について
- ④ 今後の委員会スケジュールについて
- ⑤ その他

(2) 人口縮小社会における問題解決のための検討委員会 (第3回) (3月8日)

- ① コロナと人口問題に関する情報共有および議論
- ② 今期の活動について
- ③ その他

(3) オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会
(第6回) (3月10日)

- ① ALI-ELI データエコノミー原則について
- ② 学術フォーラムに関して
- ③ その他

6 若手アカデミーの開催とその議題

(1) 若手アカデミー 運営分科会 (第6回)、若手アカデミー イノベーションに向けた
社会連携分科会 (第6回) 合同分科会 (3月23日)

- ① ナスコンバレーの活動に関する意見交換
- ② 今後の分科会の活動について
- ③ 今後の若手アカデミーの活動について
- ④ その他

7 連絡会議の開催とその議題

なし

8 サイエンスカフェの開催

なし

9 記録

なし

10 総合科学技術・イノベーション会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員会合

2月24日(木) CSTI 有識者会合 (オンライン)

3月3日(木) CSTI 有識者会合 (オンライン)

3月10日(木) CSTI 有識者会合 (オンライン)

3月17日(木) CSTI 有識者会合 (オンライン)

11 慶弔

・慶事

みどりの学術賞 令和4年3月7日公表

岡田 清孝(元会員(第20期、第21-22期)、元連携会員(第23-24期))

※モデル植物シロイヌナズナを用いた植物分子遺伝学の確立と植物器官発生機構の解明

北島 薫(会員(第25-26期)、元連携会員(第24期))

※熱帯林の機能生態学と持続可能な地球環境への貢献

恩賜賞・日本学士院賞 令和4年3月14日公表

河西 春郎(連携会員(第20期、第22-23期、第24-25期))

※大脳シナプスの形態可塑性法則の発見

日本学士院賞 令和4年3月14日公表

阿部 彩子(連携会員(第25-26期))

※氷期-間氷期サイクル10万年周期の機構の解明

川人 光男(会員(第24-25期)、元連携会員(第21-22期、第23-24期))

※計算論的神経科学による脳機能の解明とブレインマシンインタフェースの開発

野田 進（連携会員（第20期、第21-22期、第23-24期、第25-26期）

※フォトリック結晶による光制御法の極限的開拓と半導体レーザ高度化への応用

村上 章（元特任連携会員（第19-20期））

※カルマンフィルタによる逆解析法の展開と地盤工学への応用に関する研究

1.2 意思の表出（英訳版）に係る報告

なし

1.3 インパクト・レポート（計4件）

（提言）「サマータイム導入の問題点：健康科学からの警鐘」
インパクト・レポート

1 提言等内容

サマータイムは生体リズムに長期にわたり影響を与える。睡眠不足、睡眠障害のリスク、急性心筋梗塞の発生率を高めるなど、多くの国民に健康上の問題を与えかねない。健康弱者と言われる乳幼児や高齢者にとっては重圧となる制度であり、諸外国と比較して夜型で短時間睡眠の日本人にとっては、特に適応が困難である。明るいつ方に余暇を生み出す時間的余裕は、睡眠時間を犠牲にしなければ出てこない。暑さ対策としても、通勤通学時の暑さや、家庭で過ごす時間帯の暑さによる不眠や家庭内熱中症など、サマータイムには不利な点が多い。エネルギー消費の節約も、費用の負担が企業から一般家庭にシフトするだけで、全体の電気使用量はむしろ増加することが予想される。さらに、東アジア諸国ではサマータイムを導入しておらず、また欧米でも廃止の方向に向かっていく現在、無用な時差を生み出すサマータイムは近隣諸国との国際交流の観点からも好ましい制度とは思われない。これらの議論を踏まえ、生物リズム分科会は以下の提言を行う。

- ・サマータイムは、生物時計の機能を損ね、その結果睡眠不足を起し、睡眠障害のリスクを高め、急性心筋梗塞の発生率を高める。諸外国に比べ睡眠時間の短い我が国では、健康を害する可能性が高いサマータイムの導入は見合わせるべきである。
- ・サマータイムは、通勤通学時の暑さや、就寝時間帯の室内温度の上昇などをもたらす、家庭内熱中症のリスクを高める。暑さによる健康被害の増大が予測されるサマータイムの導入により、多くの国民の健康を危険にさらすべきでない。

2 提言等の発出年月日

平成30年（2018年）11月7日

3 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動）

- ・本分科会主催の公開シンポジウムを日本学術会議講堂にて開催（平成30年12月13

日) 「生活時間と健康：健康科学からみたサマータイムの問題点」

<https://www.sc.j.go.jp/ja/event/pdf2/272-s-2-1.pdf>

- ・上記シンポジウム出席者のうち希望者に、提言の解説を送付
- ・学術の動向 2019 年第 24 巻第 8 号に上記シンポジウムの特集「生活時間と健康」を發表 <http://jssf86.org/doukou281.html>

4 社会に対するインパクト

(1) 政策への反映

有・**無**

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

①学協会

- ・日本時間生物学会：持ち回り理事会にて議論（平成 30 年 11 月 15 日）
- ・日本時間生物学会：HP で提言内容を紹介するとともに、公開シンポジウム「生活時間と健康：健康科学からみたサマータイムの問題点」（平成 30 年 12 月 13 日）を当該学会が共催することについて案内（平成 30 年 11 月 19 日）
<http://chronobiology.jp/index.html>
- ・日本生気象学会：HP で提言内容を紹介するとともに、公開シンポジウム「生活時間と健康：健康科学からみたサマータイムの問題点」（平成 30 年 12 月 13 日）を当該学会が共催することについて案内（平成 30 年 11 月 18 日）
<https://seikishou.jp/>（※HP リニューアルのため現在は掲載されていない。）
- ・日本生活習慣病予防協会：HP で提言内容を紹介するとともに生活習慣病への影響を周知（平成 30 年 11 月 14 日）
<http://www.seikatsusyukanbyo.com/calendar/2018/009735.php>
- ・日本うつ病学会：HP で提言内容を紹介するとともに公開シンポジウム「生活時間と健康：健康科学からみたサマータイムの問題点」（平成 30 年 12 月 13 日）の開催について周知（平成 30 年 11 月 29 日）
<https://www.secretariat.ne.jp/jsmd/info/info-shintyaku-index.html>

②研究教育機関

- ・国立環境研究所は環境情報メディア「環境展望台」を通じて提言内容を紹介（平成 30 年 11 月 7 日）
<https://tenbou.nies.go.jp/news/jnews/detail.php?i=25754>
- ・生物リズム分科会委員 深田 吉孝が担当した東京大学講義「分子生命科学」（1・2 年生、文科・理科学学生を対象）にて受講学生 132 名に提言を配布し、提言内容を平易に解説（平成 30 年 12 月 13 日）

③市民

- ・保健指導リソースガイド：HP で提言内容を周知（平成 30 年 11 月 13 日）
<https://tokuteikenshin-hokensidou.jp/>（※現在は掲載されていない。）
- ・糖尿病ネットワーク：HP で提言内容、特に糖尿病への影響の記事を周知（平成 30 年

11月21日)

<https://dm-net.co.jp/calendar/2018/028679.php>

5 メディア

- ・共同通信（平成30年11月7日）Web版

<https://nordot.app/432809654932096097>

- ・日テレNEWS24（平成30年11月7日）Web版

<https://news.ntv.co.jp/category/society/f554eeac14154c00a713c01bdbe8ba34>

- ・宮崎日日新聞 健康科学ニュース（平成30年11月7日）Web版

<https://www.the-miyanichi.co.jp/news/Science/2018110701001728.php>

6 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。

特になし

7 考察と自己点検（1-3から一つ選択し、説明する）

- (1) 予想以上のインパクトがあった

(2) ほぼ予想通りのインパクトが得られた

- (3) 期待したインパクトは得られなかった

平成30年7月28日に東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が東京2020オリンピック・パラリンピックの暑さ対策として、1～2時間のサマータイム導入を提案し、メディアや市民は大きく反応した。同年9月27日に自党内に発足したサマータイム導入についての研究会が、「導入は時間的に困難」との見解を示し、関連法案の提出が見送られたため、提言は、直接政策に反映するに至らなかったが、連日の報道にも関わらず、健康への影響や暑さ対策としての効果について、ほとんど検討がされていない点に、分科会委員は危惧を抱き、提言の表出に至ったものである。本提言は、科学的根拠に基づき、サマータイム制による人為的な時刻操作がいかに健康に影響するかを明示し、さらに公開シンポジウム、1年後に発表した学術の動向の特集などを通じて、提言内容は浸透し、現在も引用され続けている。

インパクト・レポート作成責任者
基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同
生物リズム分科会 委員（第24期） 本間 さと
提出日 令和4年（2022年）1月28日

(提言) 「我が国における微生物・病原体に関するリテラシー教育」
インパクト・レポート

1 提言等内容

我が国における微生物・病原体に関する教育の現状及び問題点を踏まえて、初等・中等及び高等教育における微生物教育、教育者の登用・育成等、最後に医療系大学の教員の充実等について、以下に示すような三つの提言をする。

- (1) 初等、中等及び高等教育の中で、微生物及び病原体に関する基本的知識を理解度に応じて供与する。また、教育環境に応じて、微生物の存在を実証・体験できるよう努めるべきである。さらに、地域及び市民を対象とした感染症に関する系統的な啓発・教育も必要である。
- (2) 微生物と病原体を教える教育者の充実という観点から、現行の教育の実態を全国的な規模で全領域にわたって関連施設の調査を行い、その上で必要な教育人材の積極的な登用・育成を図るべく対策を講じる。また、大学及び大学院教育の中で微生物及び感染症を扱う施設・機関 —この中には医学部、歯学部、薬学部、看護学部、獣医学部、農学部、水産学部、教育学部、理学部、工学部などが含まれる—の教員の確保と、研究者の育成が必要である。
- (3) 医学系、看護学系、薬学系、農学系及び獣医学系、大学によっては工学系や理学系での微生物学又は感染症学を専門とする教員の充実を図る。また、医学部及び獣医学部の社会医学系教育においては学校保健に関する教育、感染症法に基づく届出、食品衛生法に基づく食中毒届出等に関する教育徹底が必要である。

2 提言等の発出年月日

令和元年(2019年)5月20日

3 フォローアップ(提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動)

「学術の動向」(2019年7月号)に本提言要旨を掲載した。

4 社会に対するインパクト

(1) 政策への反映

有 無

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

①学協会

- ・日本微生物連盟「新型コロナウイルス感染症に関する声明」(2020年5月29日)で提言が引用された。

<http://fmsj.umin.jp/news200529.html>

- ・日本感染症学会 HP「関連団体からのお知らせ(2019年6月26日)」で提言の発出が周知された。

https://www.kansensho.or.jp/modules/newslist/index.php?content_id=2

- ・日本生命科学アカデミーNews Letter No.6 (2019年6月14日) で提言が紹介された。
<http://www.ja-ls.jp/archives1.html#1>
- ・日本エイズ学会誌編集後記 第24巻1号 (2022年2月) で提言が紹介された。

②研究教育機関

特になし

③市民

特になし

5 メディア

- ・教育家庭新聞 健康・環境・体験学習号 (2019年6月24日号) で提言が紹介された。
https://www.kknews.co.jp/post_health/20190624_7b
- ・教育新聞 (2019年5月20日号) で提言が紹介された。
https://www.kyobun.co.jp/news/20190520_05/

- 6 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。
特になし

7 考察と自己点検 ((1) - (3) から一つ選択し、説明する)

- (1) 予想以上のインパクトがあった
- (2) ほぼ予想通りのインパクトが得られた
- (3) 期待したインパクトは得られなかった

教育関連のメディアに取り上げられたのは予想通りであったが、一般市民を対象とした広報は今後検討されるべき課題である。また、政府および行政関連部局からの法律改正の動きは見られず、本提言に関する「通知」もしくは「報告」も現時点では認められない。

しかしながら、本提言はパンデミックの前年度に発出され、その先見性は感染症・公衆衛生のコミュニティーで高く評価されており、新たな提言として「ワクチンリテラシーの教育」(仮題)が第25期病原体学分科会において準備されていることを付記する。

インパクト・レポート作成責任者
基礎医学委員会病原体学分科会 委員長
(第25期) 鎌倉 光宏
提出日 令和4年(2022年)2月16日

(提言) 「CT 検査による画像診断情報の活用に向けた提言」
インパクト・レポート

1 提言等内容

- (1) 画像検査の適正利用の推進及び画像診断体制の改善：医療機関は検査依頼医を対象とした画像診断情報の活用に関する研修を行い、画像検査の適正利用を推進し、検査依頼における臨床情報入力的重要性について啓発すべきである。専門医修練に関わる各学会は画像検査の適正利用指針を策定し、会員等に周知することが望まれる。医学生試験で画像検査の適正利用について積極的に出題することも望まれる。

政府は規制や診療報酬制度等を通じ、質の高い画像診断体制の構築を支援することが求められる。また、画像診断支援技術の開発を推進するため、全国レベルでのデータ集積を支援すべきである。

- (2) 検査依頼医による画像診断報告書確認の医療情報システムを用いた支援：医療機関は検査依頼医が画像診断報告書について確認及び対応する責任を持つことを周知すべきであり、画像診断報告書確認に関わる院内指針の策定が求められる。

医療機関は検査依頼医による画像診断報告書確認を支援するため、画像診断報告書の発行を通知し、未読報告書の一覧を表示する機能を医療情報システムに導入すべきである。緊急所見や重大所見の認識を助ける機能の導入も望まれる。関係学会にはこうした機能の仕様や設定について標準的なモデルの作成が望まれる。

- (3) 人的システムによる画像診断情報伝達の補完：医療機関は研修において医師間等の情報共有に関する意識を高めることが望まれる。緊急所見や重大所見の放射線診断医から検査依頼医への口頭連絡を推進するため、口頭連絡に関わる院内指針を策定すべきであるが、口頭連絡への過度な依存を防ぐことにも留意する。また、検査依頼医による画像診断報告書の確認や対応の状況を管理し、必要時に介入する人的体制を構築すべきである。患者本人への画像検査結果説明の院内指針を定め、職員および患者に明示すべきである。

- (4) 画像検査に関わる教育の充実：医学部・医科大学は、臨床実習等において実践的な画像診断教育を充実させ、偶発所見を含めて画像所見を漏れなく抽出する能力をかん養することが望まれる。臨床研修施設は、各診療科及び放射線科の研修で、画像診断能力のかん養に加え、検査適応の決定、適切な検査依頼入力、画像診断報告書活用に関わる能力を総合的かつ実践的に養成することが望まれる。医学部・医科大学は、画像診断報告書を含めた文書による意思疎通能力を養成する教育を充実させることが望まれる。

2 提言等の発出年月日

令和元年（2019年）9月19日

3 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動）

厚生労働省医政局総務課医療安全推進室及び医事課医師養成等企画調整室、文部科学省高等教育局医学教育課を委員長及び幹事が訪問し、担当官に直接説明し、意見交

換を行った。

また、医療安全関係学会等に本提言を送付した。

4 社会に対するインパクト

(1) 政策への反映

有・無

厚生労働省医政局総務課医療安全推進室から都道府県衛生主管部等への令和元年12月11日付事務連絡「画像診断報告書等の確認不足に対する医療安全対策の取組について」で、厚生労働科学研究費補助金による研究報告書とともに本提言が別添資料として提供され、医療機関、関係団体へ周知された。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

①学協会

- ・日本医学放射線学会のホームページで提言の発出が周知された。（2019年10月17日）

http://www.radiology.jp/member_info/news_member/20191017_01.html

- ・医療の質・安全学会誌（第14巻第4号）に資料として掲載された。

[http://qsh.jp/wp/wp-](http://qsh.jp/wp/wp-content/uploads/2019/11/fca281059b592aace679fc5ad8eea785.pdf)

[content/uploads/2019/11/fca281059b592aace679fc5ad8eea785.pdf](http://qsh.jp/wp/wp-content/uploads/2019/11/fca281059b592aace679fc5ad8eea785.pdf)

②研究教育機関

特になし

③市民

特になし

5 メディア

特になし

6 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。

特になし

7 考察と自己点検（(1) - (3) から一つ選択し、説明する）

(1) 予想以上のインパクトがあった

(2) ほぼ予想通りのインパクトが得られた

(3) 期待したインパクトは得られなかった

画像診断報告書の確認不足についての対応は各医療機関で進行中である。これに関連した事項を包括的に啓発し、各医療機関における取組に活用してもらうことが本提言の大きな目的であり、これについては厚生労働省から周知されることでインパクトが得ら

れたと期待される。

医学生や初期臨床研修医の教育に反映させることについても担当官と意見交換を行ったが、直ちに対応することは困難で、今後の検討課題となった。

インパクト・レポート作成責任者
臨床医学委員会放射線・臨床検査・病理分科会 委員長
(第25期) 井上 優介
提出日 令和3年(2021年)10月13日

(報告) 「学術と SDGs のネクストステップー社会とともに考えるためにー」
インパクト・レポート

1 報告内容

第 24 期には SDGs への取り組みを具体的に進めた結果、学術会議の持てるリソースによって可能なこと、困難なことについてもある程度判断が可能になったため、それを踏まえて次期に次の課題を引き継ぎたい。

(1) 「SDGs を学術会議がレビューする」という課題を学術会議の個々の活動に落とし込む

SDGs についての議論は継続すべきだが、「SDGs を学術会議がレビューする」「17 目標間のトレードオフを解消する」と大上段に構えると（学術会議の活動面に現状では物理的制約があるため）取り組みにくくなる。諸委員会・分科会がそれぞれに行う活動の中で SDGs を意識する方が現実的である。とくに提言等の作成において、特定の研究分野の利害を優先するのではなく、対象となる課題について複数の意見があることを示し、SDGs の総合的達成を念頭に置くことが効果的と考えられる。提言の発出者が自ら、あるいは他の分野の研究者や市民との対話を通して、異なる意見を SDGs に関連づけながら考察するならば、その提言をトレードオフ・シナジー関係の分析のケーススタディとしても位置づけられるだろう。

(2) 「社会との共創によって SDGs 達成に貢献する」という観点から「新型コロナウイルス後の世界」を構想する

「新型コロナウイルス後の世界」が次期の分野横断的課題になると予想される。2019 年冬に始まった世界的パンデミックは、経済と環境、経済と生命・健康といった SDGs の目標間の競合がまさに重大な問題であることを、科学者だけでなく市民にも認識させた。したがって、この課題の検討は、学術のアウトリーチ以上に「社会との共創」に直結するシチズンサイエンスとして行うことにも適している。新型コロナウイルス感染拡大中に普及したオンライン会議システムなどを利用するならば、異なる地域の住民の意見、あるいはサイエンス・カフェなどの会場に行くことが困難な市民の意見を共有することができ、新たな効果が見込まれる。

2 報告の発出年月日

令和 2 年（2020 年）9 月 4 日

3 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動）

特になし

4 社会に対するインパクト

(1) 政策への反映

特になし

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

①学協会

- ・国際哲学人文学会議（CIPSH:The International Council for Philosophy and Human Sciences）にて藤原委員が基調講演（デンマーク オデンセ市にて、2021年12月15-16日）
“The Global History of Religions in the Era of the SDGs”
本報告の内容を紹介

②研究教育機関

- ・横浜市立大学 FD・SD（Faculty Development・Student Development）研修会「SDGsと大学、学術」にて小林副委員長が講演（2021年12月1日）
「社会課題と大学：変貌する学術の役割」
本報告内容の講演を依頼された

③市民

特になし

5 メディア

特になし

- 6 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。
特になし

7 考察と自己点検（（1）-（3）から一つ選択し、説明する）

(1) 予想以上のインパクトがあった

②(2) ほぼ予想通りのインパクトが得られた

(3) 期待したインパクトは得られなかった」

本報告の主たる「名宛人」は学術会議第25期の科学と社会委員会である。科学と社会委員会では、確かに本報告で示した課題が第25期の委員に引き継がれたが、任命拒否問題への対応を優先するという判断により、本格的な検討は先送りとなっている（「SDGs との関係については、落ち着いてから検討する」第一回委員会議事要旨より）。

その一方で、第24期の委員は、学術会議の個々の委員会・分科会でSDGsが話題に上る度に、この報告を示し、検討の成果を提供した。このため、科学と社会委員会の外の学術会議の会員・連携会員とは問題意識を共有することができ、議論の深化に貢献した。

さらに、国際発信という点では、国際哲学人文学会議（ISCに対応する人文学の組織）の理事会に合わせて開催されるアカデミック・プログラムで、藤原委員が人文学とSDGsの関係について学術会議内でどのような議論が行われたかを主要論点として含む

基調講演を行った。

国内では、本報告をインターネットから入手した横浜市立大学から、大学の SDGs に対する取組について FD/SD 講習会のための講演を依頼され、小林副委員長（前期）が協力した。

このように、第 25 期の科学と社会委員会に対する影響は、任命拒否問題という予期しなかった事態により限定的なものとなったが、学術会議外へのインパクトは当初の予想を超えるものであり、総合して(2)と判断した。

インパクト・レポート作成責任者
科学と社会委員会 委員長（第 24 期） 渡辺 美代子
委員（第 24 期） 藤原 聖子
提出日 令和 3 年（2021 年）12 月 6 日